

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

2019年6月

鹿児島工業高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字以下を目安とすること。なお、「……場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	鹿児島工業高等専門学校
2. 所在地	鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1
3. 学科等の構成	準学士課程： 機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、都市環境デザイン工学科 専攻科課程： 機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻） JABEE認定プログラム（専攻名： 機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻） その他（ なし ）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数： 1070 人 教員数：専任教員 68 人 助手数： 0 人
(2) 特徴	
本校は急速な経済成長を背景に、産業界からの技術者養成の要望の高まりを受け、国立工業高等専門学校の法整備（昭和36年）後の昭和38年度に、機械工学科2学級・電気工学科1学級で設立された。その後、昭和42年度に土木工学科1学級、昭和61年度に情報工学科1学級を増設し、平成3年度に機械工学科1学級を電子制御工学科に改組し、5学科体制となった。さらに、平成12年に専攻科を設置し（機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、土木工学専攻）、現在と同じ準学士課程5学科、専攻科課程3専攻の体制を確立した。その後、平成15年に電気工学科を電気電子工学科に改称し、平成16年度には国立高等専門学校の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立高等専門学校機構鹿児島工業高等専門学校へ移行した。平成22年度に土木工学科を都市環境デザイン工学科に改称、平成27年度に土木工学専攻を建設工学専攻に改称し現在に至っている。 本校の教育面の特徴は、準学士課程5年間の一貫教育であるが、先述の通り平成12年度には準学士課程と有機的に結合する2年間の専攻科課程を設置し、入学定員の1割の学生に対して、計7年間の効果的な高等教育を実施している。 平成15年には日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定審査「教育プログラム名：環境創造工学」で認定され、平成16年にJABEEの認定校となり、以後平成21年、平成27年と引き続き認定されている。また、平成27年度からは、専攻科の学士の学位授与に係る特例の適用が設定されている。 学生寮（志学寮と呼称）は全国の国立高専の中でも屈指の規模を誇り、本校学生の約半数に相当する約560名が寮生活を送っている。また、上級生が下級生の生活指導にあたっており、教育の効果を発揮していることは特筆できる。研究の高度化推進を目的とした「グローバル視点で地方創生課題を解決する技術イノベーション」が、平成28年度に九州沖縄地区の研究推進モデルトライアル校としてスタートした。平成28年度のトライアル事業が評価され、平成29年度からは、研究推進モデル校に昇格し事業が継続されることとなった。教員を3つの研究分野でグループ分けをして、研究活性化を目指している。 地域共同テクノセンターが平成9年3月に設置され、地域の中小企業を対象とした技術相談や共同研究及びリフレッシュ教育等を行い、産学官連携を推進している。平成10年3月には、本校を中核とした産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブを設立し、産学官交流を積極的に行っている。平成28年4月に鹿児島高専テクノクラブと改称し、現在では90社の会員企業と16の公的機関が加入している。また、本校が主体となり、旧隼人町教育委員会（現霧島市教育委員会）と連携して、地域住民へのスポーツ支援を目的としたNPO法人隼人錦江スポーツクラブを設立し、霧島市及び近隣住民に対して健康・スポーツに関する活動を行い、健康で豊かな生活を送ることのできる地域づくりに寄与している。平成27年度からは、鹿児島大学が代表校であるCOC+に参加し、県内7つの大学や自治体・地域企業と連携し、地域のニーズに応える人材育成と卒業生の地元定着促進につながる事業に取り組んでいる。 国際交流に関しては、外国人留学生の受け入れ（平成3年度から開始）はもとより、高専機構及び九州・沖縄地区9高専の包括交流協定に加えて、本校として7つの海外の教育機関と国際交流協定を結んでおり、ホームステイ、インターンシップ、海外研修、国際学生交流等を支援している。高専における英語教育のすそ野拡大及び高専生の英語運用能	

力のベースアップを図るために国立高専機構が開始したグローバル高専事業において、平成 28 年度からは本校が九州沖縄地区のグローバル高専（展開型）拠点校に選ばれている。

Ⅱ 目的

○学校の目的

「本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」

（鹿児島工業高等専門学校学則第1条の1）

以下、学則ではないが、学生便覧・学校要覧に記載している「教育理念」、「教育理念を達成するための3つの目標」、「学習教育・到達目標」について記載する。

○教育理念（学生便覧・学校要覧）

- （1）幅広い人間性を培い、豊かな未来を創造しうる開発型技術者を育成する。
- （2）教育内容を学術の進展に対応させるため、また実践的技術の発展のため、必要な研究を行う。

○教育理念を達成するための3つの目標（学生便覧・学校要覧）

- （1）国際性を持った教養豊かな人間を育て、個性的で創造性に富んだ開発型技術者を育成する。
- （2）教育・研究活動の高度化・活性化を図る。
- （3）地域との交流を推進し、教育・研究成果を地域に還元するとともに、国際交流を推進する。

○学習・教育到達目標（学生便覧・学校要覧）

（1）準学士課程の学習・教育到達目標とサブ目標

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者

- 1-a 現代社会を生きるための基礎知識を身につけ、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。
- 1-b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。

2. グローバルに活躍する技術者

- 2-a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。
- 2-b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意図を英語で伝えることができる。

3. 創造力豊かな開発型技術者

- 3-a 専門知識を修得する上で必要とされる数学・物理・化学など自然科学の知識を修得し、それらを継続的に学習することができる。
- 3-b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。
- 3-c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。
- 3-d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。

4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

- 4-a 技術者の社会的な責任を理解することができる。
- 4-b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。

（2）専攻科課程の学習・教育到達目標とサブ目標

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者

- 1-1 人類の歴史や文化を理解する。
- 1-2 人間社会と自然環境とのかかわりを理解する。
- 1-3 技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける。

2. グローバルに活躍する技術者

- 2-1 日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ。
- 2-2 論理的な記述およびプレゼンテーション能力を身につける。
- 2-3 外国語で意思疎通を行う能力を身につける。

3. 創造力豊かな開発型技術者

- 3-1 数学，物理，化学など自然科学の基礎知識を身につける。
- 3-2 自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける。
- 3-3 専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ，与えられた制約下で計画的にものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う。
- 4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
 - 4-1 人としての倫理観を身につけ，善良な市民として社会生活を営む能力を養う。
 - 4-2 技術者が社会に対して負う責任を理解する。
 - 4-3 異文化を理解し尊重する。

○準学士課程全体の目的：学校の目的と同じ

「本校の各学科における人材の養成に関する目的その他の教育上の目的は、別に定める。」

(鹿児島工業高等専門学校学則第1条の2)

以下、各学科のディプロマ・ポリシーを示す（原文まま）。

【機械工学科】（学生便覧・学校要覧）

鹿児島高専機械工学科は，「多岐にわたる機械工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者を育てること」を教育の目的とし、豊富な実験・実習を通してものづくりを経験することで、知的自己啓発，好奇心及び柔軟な発想力を高揚させるための実践教育を行っています。このような人材を育成するため、本学科に在籍し、以下に示す能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定します。

習得すべき能力

- 1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる能力
- 2. グローバルに活躍することができる能力
- 3. 創造力を活かし物事に取り組むことができる能力
- 4. 相手の立場に立ってものを考えられる能力

【電気電子工学科】（学生便覧・学校要覧）

鹿児島高専電気電子工学科は，「多岐にわたる電気電子工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者を育てること」を教育の目的とし、豊富な実験・実習を通してものづくりを経験することで、知的自己啓発，好奇心及び柔軟な発想力を高揚させるための実践教育を行っています。このような人材を育成するため、本学科に在籍し、以下に示す能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定します。

習得すべき能力

- 1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる能力
- 2. グローバルに活躍することができる能力
- 3. 創造力を活かし物事に取り組むことができる能力
- 4. 相手の立場に立ってものを考えられる能力

【電子制御工学科】（学生便覧・学校要覧）

鹿児島高専電子制御工学科は，「多岐にわたる電子制御工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者を育てること」を教育の目的とし、豊富な実験・実習を通してものづくりを経験することで、知的自己啓発，好奇心及び柔軟な発想力を高揚させるための実践教育を行っています。このような人材を育成するため、本学科に在籍し、以下に示す能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定します。

習得すべき能力

- 1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる能力
- 2. グローバルに活躍することができる能力
- 3. 創造力を活かし物事に取り組むことができる能力
- 4. 相手の立場に立ってものを考えられる能力

【情報工学科】（学生便覧・学校要覧）

鹿児島高専情報工学科は、「多岐にわたる情報工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者を育てること」を教育の目的とし、豊富な実験・実習を通してものづくりを経験することで、知的自己啓発、好奇心及び柔軟な発想力を高揚させるための実践教育を行っています。このような人材を育成するため、本学科に在籍し、以下に示す能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定します。

習得すべき能力

1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる能力
2. グローバルに活躍することができる能力
3. 創造力を活かし物事に取り組むことができる能力
4. 相手の立場に立ってものを考えられる能力

【都市環境デザイン工学科】（学生便覧・学校要覧）

鹿児島高専都市環境デザイン工学科は、「多岐にわたる建設工学分野の知識を応用し、最先端の高度な技術に対応できる技術者を育てること」を教育の目的とし、豊富な実験・実習を通してものづくりを経験することで、知的自己啓発、好奇心及び柔軟な発想力を高揚させるための実践教育を行っています。このような人材を育成するため、本学科に在籍し、以下に示す能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定します。

習得すべき能力

1. 人類の未来と自然との共存をデザインすることができる能力
2. グローバルに活躍することができる能力
3. 創造力を活かし物事に取り組むことができる能力
4. 相手の立場に立ってものを考えられる能力

○専攻科課程の目的：

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする」

（鹿児島工業高等専門学校学則第 46 条の 1）

「専攻科の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育上の目的は、別に定める。」

（鹿児島工業高等専門学校学則第 46 条の 2）

以下、各専攻のディプロマ・ポリシーを示す。

【機械・電子システム工学専攻】（学生便覧・学校要覧）

機械・電子システム工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、機械と制御技術を基本としたハード面、情報システム技術を基本としたソフト面を統合した分野において、環境に配慮した高付加価値製品の設計開発および実践的に問題解決できる開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

【電気情報システム工学専攻】（学生便覧・学校要覧）

電気情報システム工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、ハードウェア及びソフトウェア技術からシステム制御や電子材料に至る幅広い分野に精通し、地球環境にやさしい高品質で高付加価値製品の設計・開発や制御システム・情報システムなどを担当できる開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

【建設工学専攻】（学生便覧・学校要覧）

建設工学専攻は、本校専攻科の学習・教育到達目標を達成するとともに、建設工学の基礎となる市民が快適で安全な社会生活を送ることができる環境基盤整備を行う工学を学び、人間としての倫理観を備えた技術者を育成する。また、地域に密着した社会基盤の構築に寄与することができる創造性豊かな開発型技術者を育成する。本専攻に在籍し、所定

の単位を修得した学生に対して、修了を認定する

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項 A 研究活動の状況

評価の視点	
A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。	
観点 A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(設) 第 2 条第 2 項
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ☒ 定めている ☐ 定めていない	◇定めていることがわかる資料 ・資料 A-1-1-(1)-0 1 P1 「教育理念」 ・資料 A-1-1-(1)-0 2 P2 「鹿児島工業高等専門学校学則」 ・資料 A-1-1-(1)-0 3 P3 「専攻科学習案内」 ・資料 A-1-1-(1)-0 4 P4-5 「平成 30 年度学校要覧」 ・資料 A-1-1-(1)-0 5 P6-7 「特別研究Ⅰシラバス」 ・資料 A-1-1-(1)-0 6 P8-9 「特別研究Ⅱシラバス」
観点 A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 観点 A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。 ○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。 ○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。	
関係法令	(設) 第 2 条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 ☒ 整備している ☐ 整備していない	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料 ・資料 A-1-2-(1)-0 1 P10 「平成 30 年度分野別研究グループ」 ・資料 A-1-2-(1)-0 2 「地域共同テクノセンター」

	http://www.kagoshima-ct.ac.jp/region/facility/techno-center/
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■ 整備している □ 整備していない	◇ 目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料 ・ 資料A-1-2-(2)-01 P11-13 「2018年版 鹿児島高専研究シーズ集」 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/enterprise/seeds-collection/ ・ (再掲) 資料A-1-2-(1)-01 P10 「平成30年度分野別研究グループ」
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■ 整備している □ 整備していない	◇ 目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料 ・ 資料A-1-2-(3)-01 P14 「平成30年度鹿児島工業高等専門学校予算配分方針」 ・ 資料A-1-2-(3)-02 P15-17 「平成31年5月20日年度校長裁量経費決算報告書」 ・ 資料A-1-2-(3)-03 P18-19 「平成29年度研究力向上と科研費獲得のための研究発表会」 ・ 資料A-1-2-(3)-04 P20-21 「平成30年度研究力向上と科研費獲得のための研究発表会」
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■ 行われている □ 行われていない	◇ 研究活動の実施状況がわかる資料 ・ 資料A-1-2-(4)-01 P22-49 「研究報告(2015～2017年)」 ・ 資料A-1-2-(4)-02 P50 「Researchmap」 https://researchmap.jp/search/#_active_center_0 ・ 資料A-1-②-(4)-3 「鹿児島高専テクノクラブ」)http://www.kagoshima-ct.ac.jp/enterprise/technoclub/ ・ 資料A-1-2-(4)-04 P51-52 「受託研究一覧, 共同研究一覧」
観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	
【留意点】 ○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■ 満たしていると判断する □ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄

(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■得られている □得られていない	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料 ・(再掲) 資料A-1-2-(4)-01 P22-49 「研究報告 (2015～2017 年)」 ・資料A-1-3-(1)-01 P53 「科学研究費助成事業申請・採択状況」 ・資料A-1-3-(1)-02 P54 「教科書、書籍一覧」 ・(再掲) 資料A-1-2-(4)-04 P51-52 「共同研究実績・受託研究実績」 ・資料A-1-3-(1)-03 P55 「研究関係の受賞の実績」 ・資料A-1-3-(1)-04 P56-57 「研究活動の紹介新聞記事」
観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇改善の体制がわかる資料 ・資料A-1-4-(1)-01 P58-63 「地域共同テクノセンターによる活動（地域共同テクノセンターNEWS）」 ・(再掲) 資料A-1-2-(2)-01 P11-13 「実施状況の把握（鹿児島高専研究シーズ集 2018 版）」 ・資料A-1-4-(1)-02 P64-65 「平成 30～平成 31 年度科研費採択に向けての取組」 ・資料A-1-4-(1)-03 P66-68 「平成 28～30 年度 研究力向上のための発表会」 ◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 地域共同テクノセンターでは、技術研修会を毎年開催し、研究シーズの発表を行っている（A-1-4-(1)-01 P58-63、A-1-2-(2)-01 P11-13）。また、研究力の向上と科研費採択に向けて、学校全体で計画的に取り組

	んでおり（A-1-4-(1)-02 P64-65）、外部の講師を招いた講演会等を開いている。研究レベルの底上げを図るために中堅、若手教員の研究力向上を目指した研究発表会を行っている（A-1-4-(1)-04 P66-67）。これらの取り組みの結果、科研費の採択数が徐々に伸びておりA-1-3-(1)-02 P53）、研究活動の改善につながっている。
A-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断
☒ 目的の達成状況が非常に優れている ☐ 目的の達成状況が良好である ☐ 目的の達成状況がおおむね良好である ☐ 目的の達成状況が不十分である

選択的評価事項A

優れた点
・ 地域共同テクノセンターを中心に、全学的に研究活動の促進を図っている点 ・ 産官学交流組織「鹿児島高専テクノクラブ（KTC）」を設立し、共同研究の推進や産官学連携の促進している点 ・ 地元企業からの技術相談や本校の研究シーズと企業のニーズのマッチングを図っている点 ・ 教員・技術職員の研究業績等を researchmap 上に公開し、地域の産業界との共同研究の推進を支援している点
改善を要する点

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

評価の視点	
B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。	
観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
【留意点】	
○ なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ☒ 定めている ☐ 定めていない	◇定めていることがわかる資料 ・資料B-1-1-(1)-01 P69 「教育理念」 ・資料B-1-1-(1)-02 P70-71 「「COC+高専」地方創生推進会議要項」 ・鹿児島工業高等専門学校 COC+ 地（知）の拠点 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/coc/ ・資料B-1-1-(1)-03 P72 「平成30年度自己点検評価書評価項目」
観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。	
【留意点】	
○ 実施体制について分析することは必須ではない。	
関係法令	(法)第107条 (設)第21条
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。 ☒ 策定している ☐ 策定していない	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料 ・資料B-1-2-(1)-01 P73 「入学者の確保」 ・資料B-1-2-(1)-02 P74 「地域連携」 ・資料B-1-2-(1)-03 P75 「鹿児島工業高等専門学校学則 第12章公開講座」 ・資料B-1-2-(1)-04 P75 「鹿児島工業高等専門学校公開講座規則」 ・資料B-1-2-(1)-05 P76 「地域との連携協定」 ・資料B-1-2-(1)-06 P77 「日置市との連携協力に関する協定書」 ・日置市との連携協定

	http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/1664/ ・霧島市との連携協定 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/2052/ ・長岡技術科学大学と鹿児島県長島町及び鹿児島工業高等専門学校との包括的連携に関する協定 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/5834/ ・資料B-1-2-(1)-07 P78-79 「鹿児島工業高等専門学校図書館一般市民等利用要項」 ・資料B-1-2-(1)-08 P80 「鹿児島工業高等専門学校学外者の図書館の利用要領」 ・資料B-1-2-(1)-09 ・隼人錦江スポーツクラブ http://www.hksc.jp/index.html ・災害対応型自動販売機の運用及び備蓄用水の提供に関する覚書調印式 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/7754/ ・資料B-1-2-(1)-10 P81-82 「鹿児島県ドクターヘリ」
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 ■実施している □実施していない	◇実施状況がわかる資料 ・資料B-1-2-(2)-01 P83-85 「COC+事業講義・講演及び工場見学等の実績」 ・資料B-1-2-(2)-02 P86 「平成3年度一日体験入学ポスター」 ・資料B-1-2-(2)-03 P87 「公開講座チラシ」 ・資料B-1-2-(2)-04 P88 「冬の公開講座チラシ」 ・資料B-1-2-(2)-05 P89 「Robogals Kagoshima 学校要覧」 ・Robogals Kagoshima の活動報告（2018年9月） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/10239/ ・Robogals Kagoshima の活動報告（2018年11月英国） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/10248/ ・Robogals Kagoshima の活動報告（2018年11月） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/10252/ ・Robogals Kagoshima の活動報告（2019年2月） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/11281/ ・Robogals Kagoshima の活動報告（2019年3月） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/11284/ ・Robogals Kagoshima の活動報告（2019年3月） http://www.kagoshima-ct.ac.jp/news/11286/ ・資料B-1-2-(2)-06 P90 「パワーアップ研修日程_教務係資料」 ・資料B-1-2-(2)-07 P91

	「隼人学 2019」 ・資料 B-1-2-(2)-08 P92 「隼人錦江スポーツクラブプログラム紹介」 ・資料 B-1-2-(2)-09 P93 「RGB かごしま」 http://www.kagoshima-ct.ac.jp/%E6%9C%AA%E5%88%86%E9%A1%9E/5859/
観点 B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 ■認められる □認められない	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等） ・資料 B-1-3-(1)-01 P94 「鹿児島高専 COC+事業報告」 ・資料 B-1-3-(1)-02 P95-97 「広報活動(平成 28-30 年度)」 ・資料 B-1-3-(1)-03 P98-101 「公開講座・出前授業(平成 28-30 年度)」 ・資料 B-1-3-(1)-04 P102-103 「平成 30 年度公開講座実施報告書」 ・資料 B-1-3-(1)-05 P104-105 「平成 30 年度冬の公開講座実施報告書」 ・資料 B-1-3-(1)-06 P106 「平成 30 年度一日体験入学参加者数」 ・資料 B-1-3-(1)-07 P107-109 「平成 30 年度一日体験入学アンケート」 ・資料 B-1-3-(1)-08 P110 「平成 30 年度パワーアップ研修感想」 ・資料 B-1-3-(1)-09 P111 「図書館の学外利用者数」
観点 B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	
【留意点】 ○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。 ○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。	

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ☒ 整備している ☐ 整備していない	◇改善の体制がわかる資料 ・資料B-1-4-(1)-01 P112 「鹿児島高専 COC+事業中間報告（平成 27～29 年度）」 ・資料B-1-4-(1)-02 P113 「平成 30 年度第 3 回一日体験入学実行委員会」 ◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 平成 31 年度入学試験において、受験者数が増加し、特に女子の増加（受験者・入学者）が顕著であった http://www.kagoshima-ct.ac.jp/entrance/ 志願者状況。在校生においても、女子学生の割合が増加しつつある http://www.kagoshima-ct.ac.jp/admission-guide/students/ 。この一部の原因としては一日体験入学、Robogals Kagoshima をはじめとした中学生への啓蒙活動が寄与すると考えられる。
B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
・体育の授業は 2 限目以降に設定して、1 限目の時間帯は隼人錦江スポーツクラブに体育施設を提供している。	

選択的評価事項B 目的の達成状況の判断
☒ 目的の達成状況が非常に優れている ☐ 目的の達成状況が良好である ☐ 目的の達成状況がおおむね良好である ☐ 目的の達成状況が不十分である
選択的評価事項B
優れた点
・本校の目的に沿って公開講座等を実施し、多数の受講者があり満足度も高い点 ・隼人錦江スポーツクラブと協同し、地域スポーツ振興に施設・人材を提供している点 ・COC+事業に参画し、地元企業への就職者数・インターンシップ参加者数増加に取り組んでいる点 ・Robogals Kagoshima を立ち上げ、女子中学生への啓蒙活動を推進している点
改善を要する点